



晴天の心

立教 188 年 11 月号
大阪府富田林市寿町 4-9-10
URL: www.tomiishi.net
TEL: 0721-23-3466 090-5243-4669



秋季大祭 11月19日(水) 午前10時
婦人会例会 11月9日(日) 午前10時～

←「火・水・風」の守りを受けて

10月7日長崎くんちに行ってきました。

ちょうどその時に長崎歴史文化博物館では、ポケモン工芸展が開催されていました。

左はその時の作品の一つです。ポケモンは任天堂が、カードゲーム、ゲーム専用機、漫画雑誌掲載、TVアニメとマルチメディア展開して持続的に世代を超えて楽しめるものに育て上げ、今では世界中で楽しまれている。非常に先の長い目線で作り上げてきたものです。時間が経つとそれを見て育った世代が、いつの間にか時代の

先駆けとなる技術や歴史的技術を継承する世代となってくる。中には人間国宝のような人もポケモンを自分の作品の中で自身の持つ技術を使って創り上げて行く時代となったのでしょう。ここまでは、任天堂も計算してはいなかったとおもいますが、すごいことになっているのです。8月に長崎恐竜博物館で行われている、ポケモン化石博物館にも訪れましたが、博物館としての来場者数が劇的に増えたそうです。親子で楽しめるすごいコンテンツとなっているのです。ゲームの世界だけでなくそこから何を学びそして創り出すようになるのか？工芸展を見ながら奥の深さを感じました。

...

付属建物、屋根・外装補修と塗装

10月4日に完了しました。予定より少し遅れ、また、見積もりより少し費用がかさみましたが、見積額の10%以内でしたので、かからないと判らないの範疇だと思います。

渡り廊下の雨漏りも止まりましたし、軒天やベランダの樋の補修に少し見積もり時に読み切れなかった部分でいろいろ対応してもらいました。

まあこれでしばらくは付属建物は外壁は大丈夫でしょう。

...

大難を小難小難を無難に

8月お盆休みからいろいろありました。

まず、息子が休みを利用して名古屋へ車で行くとして、タイヤのパンク、と思われたのが、足回りまで壊れていることから全損となって、車を買換えることに。寺内町でのことからJAFのレッカーで、自宅の戻り、その日は私の車で向かって事なきを得ることが出来た。これが戻れないところだったと考えると、大難を小難に。

10月に入って、嫁さんがワゴンRで夜出かけて



途中で後ろタイヤのパンク。8月に点検してもらったときには異常は無かったが、出来れば交換を奨められてもいた。電話でとりあえずJAFを呼んでもらうことでこちらまで自宅までレッカー移動。翌日、自宅にあるスタッドレスタイヤと履き替えて、オートバックスへ。4本を新品タイヤに。乗り心地と燃費性能を考慮してブリジストンに。

ダンロップに比べて柔らかいなぁ。これも、その前の週に岡山笠岡まで高速道路を走っていたときの起こっていたらもっと大変なことになっていたかと思うと、大難を小難に。



そして、嫁さん愛用の原付バイクのヘッドライトがつかなくなった。このバイク、三中から無料で分けていただいて10年近くいろいろ修理しながら乗ってきました。今回のダメージは、単なる電球が切れたのではなく配線関係も駄目と言うことで、交換部品を取り寄せて修理してメンテナンスすると、3~4万円とのこと！

その店では、もう原付の在庫がないとのことだったので、近所の別の店に行くと、原付の新車があるとのこと、しかも、まだ色の選択も出来る。長く乗ることを考えると無駄にならないことから買うことに。その日のうちに手続きが全て済んで夕方には乗ることが出来た。これも、ちょっとしたトラブルだったかもしれないけど、自分の好みの色を選択して買うことが出来た。小難が無難に。

屋根・外壁工事は、細かな問題はあった物の事故無く進められたことも、大きなご守護でした。神様の加護と守護を深く感じた一ヶ月でした。

・ ・ ・

今日の
おやのことは

「日々の事情」

難しいようで難しいない。
なれど難しい事の論をするが
日々の事情。



おさしづ 明治24年2月8日

長く厳しい残暑が終わり、ようやく秋の空気を肌に感じるようになりました。往来を行き交う人々の服装にも、長袖や上着が目立ちます。そろそろ、衣替えの季節のようです。

毎年この時期になると「何か新しいことを始めたい」とか「もう一度、自分を見つめ直したい」などといった気分になります。時には、新たな目標を書き出して壁に張ったりもするのですが、予定通りに事が運ぶことは、まずありません。途中で頓挫することがほとんどです。やはり一時的な思いつきだけでは、自分を変えることは難しいようです。

「難しいようで難しいない。

なれど難しい事の論をするが日々の事情」

若い人から「自分を変えたい」と相談されたときは、よく「何か一つでも、毎日続けられる目標を見つけるといいよ」とアドバイスをしています。

一見、簡単そうな心定めであっても、毎日続けていると必ず実行することが難しい状況に直面します。そのとき、初心に帰

って自分を見つめ直すことが、明日もまた昨日と違う自分を生きるための原動力になるのです。

自分を変えるためには、変わるための努力を日常的に継続することです。

このことに気づいたのは、もうずっと前のことですが、いまだに「日々」の大切さと続ける難しさについて、反省を繰り返しています。(岡)

・ ・ ・

明治二十四年二月八日（陰暦十二月晦日）夜 本席御身上の願

さあ／＼／＼、一寸話し掛けたる、刻限の処、どういう事もこういう事も前々以て諭し置く。諭しそれ／＼の理が無い事情を早くという。難しであろう。なれど事情を聞き分け。身上何でもなき処、どういうものぞいなあと言う。

話の事情に話聞く。話聞いても聞き流し、もうこれで良ければよい。いかなる事も聞き分け。身の処事情ある不足ある、どういう事を尋ねる。皆諭しある。どれだけの諭聞いて、事情治まってある。何彼に聞き分けてくれ。どういう事が治まってある。

難しいようで難しいない。なれど難しい事の論をするが日々の事情。

その日／＼の楽しみであろうまい。一日の日よりの楽しみは、何も楽しみになろうまい。よう思やんしてみてくれ。めん／＼それ／＼身上に事情あって、長いのも短いのもある。

皆それ／＼の心より思やんしてみよ。さしづまでの事情や。聞くまでの理である。何遍談しても、そのまゝでは何にもならん。さあこれからすっきり洗い替え。楽しみ／＼。一年の理、三百六十日と言うてある。一年というは、三日という。楽しむ事情どういう事情、いかなるも聞き分け。一年の事情無くして三日とは言えようまい。いつまでもこれであろうかと聞いて、事情定まって定まろうまい。

日が経てばそのまゝ、前々さしづ、一寸まあ復古同様のもの、それを放って置いては、何よの諭も出来ようまい。さあ／＼早く／＼。聞いた通り事情を早く／＼。

・ ・ 中略 ・ ・

さあ／＼／＼、皆めん／＼に諭する理で、言い難くい／＼と言うて居たらいつまでも言い難くい。さしづを以て話すなら、何にも言い難くいことも難しい事であろうまい。分かった処から諭すには、何も遠慮気兼ねは要らん。控える理は要らん。

どうでもあれはこうと言うなら、こうという事情を出せ。事情を出して尋ね出よ。さあさあ何も難しい事は無い。道を道と思えば何にも難しい事は無い。又一つには遠慮は有るまい。日々の処、前々にも大抵口説き／＼たる処、どうもならん。日々放って置こうにも置けん。日々の事情が重なれば、どうも見苦しい、むさくろしい。どんな大きい事に成るやら分からん。いかなるも磨き立て、洗い立てる処、拭き掃除してどうでもこうでも磨き切る。ぬっと出る事情は、諭すに難しかろう、言い難くかろう。何も言い難くい事は無いで。

・ ・ ・

明治24年は教祖5年祭の年。この前後のおさしづには、5年祭に関する伺いが多数見られる。教勢が野に火を放つように広がっていった時期と重なります。

何をするにしても神様に伺いながら、進めていったのでしょう。今までにやったことのないことばかりなのですから。それに対応しようとするとなかなか難しいことばかり。だから、自分たちだこれでいいと考えたことを、神様に伺ってみれば良いと。そのとき、今までの慣習でこうしてきたからこうしたいと、考えているのならその事情を持って尋ねよとも言っている。ちゃんとさしづすると。

まずは自分たちで話し合って考えよ、それに対しては的確なさしづで示すと。

今現在、さしづは出ない。けど、いろいろな方法を使って知らせようとされている。

それを如何に受け取ることが出来るのか、これは自分のところを磨き澄ます意外にないと思う。道を道と思えば何も難しいことはない。すごい重い言葉だ。





第5回

ようばく一斉活動日 11月1日(土)午後1時～

ようばく一斉活動日も次回11月開催が最終回となりました。
今までに受講された方は、皆さん感動して勇んだ心になったと喜んでおられます。
教祖年祭まであとすこし、ぜひ受講して、心の花を咲かせましょう。

2025年11月1日
午後1時～
天理教錦分教会

講師
堀田正伸先生(予定)
・空堀分教会長・元支部長
・大阪教区ひのきしん部長

参加御供
一人300円
(中学生以下は不要)

*教会横と南側の神社に駐車場を用意しています。
駐車場には限りがありますので、車でご来場の場合は、
できるだけ誘い合って乗り合わせてご来場下さい。

*終了後、抽選会を行います。
豪華景品を用意して参加をお待ちしています。

*会場 錦(にしき)分教会
富田林市五軒家1丁目12-30 ☎072-365-0315



ようばく一斉活動日も残すところ11月1日(土)開催で最終回となりました。

様々な先生方の講話を通して、少しは年祭に向かうところが磨かれたと思います。
南河内支部3組は錦分教会を会場として行います。今回は、終了後にお楽しみ行事として、抽選会を行います。教祖年祭まであと少しです、自分に出来ることを改めて年祭まで続けると言うことで、真実として受け取っていただき、倍になって帰って来ることでしょう。
どうぞ、ご来場ください。

...

11月は大阪教区秋の献米となっています。
教会でお預かりして本部へ届けます。
現物でもお供えでもかまいません。

...

教祖逸話編 末代にかけて

ある時、教祖は、豊田村の仲田儀三郎の宅へお越しになり、家のまわりをお歩きになり、「しっかり踏み込め、しっかり踏み込め。末代にかけて、しっかり踏み込め。」と、口ずさみながらお歩きになって後、仲田に対して、「この屋敷は、神が入り込み、地固めしたの

や。どんなに貧乏しても、手放してはならぬ。信心は、末代にかけて続けるのやで。」と、仰せになった。後日、儀三郎の孫吉蔵の代に、村からの話で、土地の一部を交換せねばならぬこととなり、話も進んで来た時、急に吉蔵の顔に面疔が出来て、顔が腫れ上がってしまった。それで、家中の者が驚いていろいろと思案し、額を寄せて相談したところ、年寄り達の口から、教祖が地固めをして下された土地であることが語られ、早速、親神様にお詫び申し上げ、村へは断りを言うたところ、身上の患いは、鮮やかにすっきりとお救け頂いた。(註)年寄り達とは、中田しほと、その末妹上島かつの二人である。しほは、儀三郎の長男の嫁。

先を楽しめ

明治九年六月十八日の夜、仲田儀三郎が、「教祖が、よくお話の中に、『松は枯れても、案じなし。』と、仰せ下されますので、どこの松であろうかと、話し合っているのですが。」と言ったので、増井りんは、「お祓いさんの降った松は枯れる。増井の屋敷の松に、お祓いさんが降ったから、あの松は枯れてしまう。そして、あすこの家は、もうあかん。潰れてしまうで。と、人人が申します。」と、

人の噂を、そのままに話した。

そこで、仲田が、早速このことを、教祖にお伺いすると、教祖は、

「さあ／＼分かったか、分かったか。今日の日、何か見えるやなけれども、先を楽しめ、楽しめ。松は枯れても案じなよ。人が何んと言うても、言おうとも、人の言う事、心にかけるやない程に。」と、仰せ下され、

しばらくしてから、「屋敷松、松は枯れても案じなよ。末はたのもし、打ち分け場所。」と、重ねてお言葉を下された。